失敗に学ぶノート

社員研修マンガ教材

法律・士業

A君

こちらはA君です。
A君は学生時代、法律の授業を受けて、法律に興味を持ちました。
そのため、将来は、法律でアドバイスなどをする「士業」の仕事（税理士、会計士、社労士、行政書士、弁護士、司法書士などの仕事）をしたいと思い、国家試験に挑戦して、士業になろうと思いました。

不合格繰返す

しかし、もともと勉強が得意ではなかったA君にとっては、この挑戦はとても高い壁でした。
A君は、何度も試験を受けては不合格、という体験を繰り返していました。

8年目

そして、A君が勉強を開始してから８年目のことです。
この年も国家試験に挑んだA君、４日連続で行われる試験の最終日のことです。

『ようやく、試験も４日目、今日で最終日か。なんだか、今年は、調子が良い気がする。なんとなくだけど、できている気がするんだよね。よし、今日の最終日の試験もがんばろう』

最終試験、試験開始の合図が鳴りました。Ａ君は、試験問題のページをめくりました。

『フムフム、フムフム、おおー！よし、この問題なら解けるぞ、いけるぞっ』

Ａ君は持てる力をふりしぼって問題を解きました。

すると、なんと、試験時間が一時間も余って、問題を解き終わりました。

『やったー、最後の最後に絶好調だ。これならいけるかもしれない。合格かもしれない』

そして、試験終了の合図が鳴りました。

『ふー、終わった終わった。もしかしたら、これで、長い長い受験生活もおわりになるかもなぁ』

一時間あまる

そして、しばらくしたころ、Ａ君は、試験の回答予想検討会に参加しました。

そして、Ａ君は、ここで、衝撃受けることになりました！！

回答予想検討会

『ガガガガーン！やっちゃったー、やっちゃったよー！！ああー、なんてこったー！！』

なんと、Ａ君は、試験問題を読み間違えていたことがわかりました。

『うわー、やっちゃったよ、しまったー、ダメだ―、なんだか、試験時間が一時間も余るなんておかしいなとも思ったけど、まさか、問題を読み間違えてしまっていたなんて。しまったー。今までの苦労が水の泡だー』

『あー、どうなっちゃうんだろう。でもほかの科目は点数が良さそうだから、なんとか、そっちで挽回できないかな。あー、でも、やっぱり問題読み間違いだから、さすがにこれはもう挽回できないかな。はー、どっちかな、どっちかな・・・』

それから３か月後のことです。
いよいよ、試験の結果発表日になりました。
Ａ君は、インターネットで、合格者番号の確認をしていました。

３か月後

『番号あるかな？あるかな？あ、あ、あーーーーーー！！！』

ない

『ないっ、番号がない、あーーーーー。ないよー！！』

またもや不合格

残念ながら、Ａ君は不合格となってしまいました。
なんと、Ａ君は、合格まで、あと２点で、不合格になってしまいました。
それからＡ君は、毎日、世界が灰色になっているように見えました。
一緒に勉強した仲間の多くが合格し、自分だけが取り残されたような気持ちになりました。
Ａ君はしばらくの間、無気力になってしまいました。

失敗に学ぶノート

　それから、長く落ち込んでいたＡ君ですが、もう一度、がんばってみようと思いました。
　Ａ君は少しずつ、勉強を再開し、モチベーションを取り戻していきました。
　そして、ある日のことです。

『そうだ、ノートをつくろう。失敗やケアレスミスなどをしてしまったことを、ノートにつけて、それを試験の直前にもう一度読み返そう。
　どれだけ勉強しても、ミスをしてしまったらそれまでなので、最大限、当日のミスを減らすために、ノートをつけよう』

『そうだ、失敗に学ぶノートだ！！』

　こうして、Ａ君は、それから、勉強や模擬試験を受ける中で、失敗したこと、ミスしたことをノートに書きとめて、自分の失敗や、ミスしやすい自分の傾向などをノートにまとめていきました。

　そして、また、国家試験の季節がやってきました。
　Ａ君は、今度こそはと、並々ならぬ気合いを入れて、最後の最後まで、猛勉強を続けていました。
　Ａ君は、何度も何度も、この失敗に学ぶノートを読み返しながら、勉強を続け、再度、４日間に及ぶ試験を受けました。

合格
発表日

そして、いよいよ合格発表日になりました。

さて、このＡ君、リベンジの試験に合格したと思いますか？不合格になったと思いますか？

＜ディスカッションテーマ・質問項目の例＞

・ご意見、ご感想は？

・あなたがＡ君だったら、どうしたと思いますか？

・あなたにも同じような経験をしたことはありますか？

・あなたの職場で改善しようと思ったことはありますか？

・あなたの職場で誰と誰が連携・協力すると良いと思いますか？

＜研修活用場面・ねらい＞

人が行うことについて１００％ミスが起きないようにする、ということは難しいです。そこで、ミスが起きる可能性を前提に、いかにミスが起きないようにするか、そのための工夫や仕組みが大切です。

そこで、受講者の方に、まずは一般論、他者事例（著者の実話です）として、こういった状況があり得ることを認識していただき、ご自身の業務や職場に活かせるヒントを探していただくために、このケーススタディ教材を活用することが考えられます。

そして、それについて、意見交換していただくことによって、

①自身の業務のミスを減らす工夫や仕組みを考えていただくのみならず、自身の立場を超えて改善のアイデアが思い浮かぶ可能性がある

②それらを意見交換することで人それぞれ色々な考え方があることが理解できる

③意見交換によりコミュニケーションが増える

④職場でお互い様・助け合いの気持ちが増える、

⑤各自がそれぞれミス・失敗の対策を頑張ろうというモチベーションが増える

という研修のねらいがあります。

＜ポイント＞

ケーススタディ型の研修は、講師が知識を教える、指導する情報提供型の研修ではありませんので、受講者の方が「考える」時間が大切です。「考える」時間が受講者の**意識や行動の変化・成長、ひいては業績向上**を促します。逆に、指導や押し付けをしてしまうと思考停止になってしまうため、受講者の意識・行動の変化や成長につながらない可能性があり、注意が必要です。

受講者が自ら考えて、自ら意識や行動を変化させて成長していただくために、受講者が「考える」時間、シンキングタイムを取っていただければと思います。

その際は、「紙に書く」ことで思考をまとめやすくなり、また思考を表現するトレーニングにもなりますので、ワークシート（プリント・レジュメ）を配布することをオススメします。また、記載された内容を確認することで研修の「効果測定」も可能になります。

そのうえで、紙に書いた内容を二人一組やグループで発表し合うことで、他者の意見・アイデアによってヒントや刺激を得ることができたり、自分と違う意見に触れることで人それぞれ色々な意見・考え方があることを再認識していただいて、他者への思いやりや配慮を促進し、コミュニケーション・チームワークの強化につなげることをオススメします。

また、講師の側で全く想定していない回答が出ることはよくあることであり、それも貴重な情報といえます。その職場固有の事情によるものなのか、受講者個人の事情によるものなのか、さまざまな事情があると思われ、それらを確認・検討する材料になるからです。

＜よくあるご意見・ご感想＞

・ミスを減らすための対策・仕組みを考えようと思った。

・誰にでもミスはあるので、それを前提に、フォローし合うことが大切だと思った

・知らないところでフォローしてもらっているかもしれないと思った

・自分一人で対策を考えるより、組織全体で検討したいテーマだと思った

＜着眼点の提供＞

なお、講師の側から知識の指導をすることは想定しておりませんが、ヒント・着眼点を提供して、さらに受講者の方に考えていただくことはあります。

今回のケースでいえば、ヒント・着眼点としては、以下の項目が挙げられます。

①一人でできること、誰かと協力すること、会社全体で取り組むこと、などに分けてみる

②文字を活用すること、絵・ビジュアルを活用すること、音声を活用すること、などに分けてみる

③成功したモデルケースを探す

④常に改善しつづける